



全難聴便り

発行:事務局 〒162-0066
東京都新宿区市谷台町 14-5 MSビル市ヶ谷台1F
編集:全難聴事務局
電話:03(3225)5600
FAX:03(3354)0046
URL:<http://www.zennancho.or.jp>
E-Mail:zennancho@zennancho.or.jp

全難聴 要約筆記事業研修会（東京）開催

1月8～9日の2日間、平成28年度全難聴要約筆記事業研修会が開かれました。今回で6回目となる研修は60名近い方に参加いただき会場は熱気がみなぎっていました。会場は戸山サンライズ研修室でした。全国から要約筆記者養成講座で難聴者講師を務める方、目指す方や要約筆記事業体の職員等関係の方々の参加でした。全難聴要約筆記部の事業として宇田川部長、副部長、部員の方々が講師やスタッフを務めていただきました。新谷理事長には冒頭のあいさつと厚労省時末専門官講演のあと、「要約筆記事業への取り組みと課題」のテーマで社会インフラとしての要約筆記を改正障害者雇用促進法と障害者差別解消をステップに更に充実していくことが当事者団体としての役割であると話されました。

2日目は難聴者運動の歴史の単元を模擬講義として藤谷副部長が行いました。特に難聴者運動黎明期や要約筆記制度創生の胎動期における組織、人脈の紹介や功績等を織り交ぜた講義は好評でした。

続く講義は宇田川部長が行ないました。前半テーマは「通訳としての要約筆記」として権利擁護としての要約筆記者養成が制度化されるまでの全難聴事業の経緯を含めて話されました。後半は「養成講座でノートテイク指導に関わる時に、踏まえておきたいこと」をテーマに話されました。最後にまとめとして佐野事務局長から話がありました。1日目の司会は江連部員、2日目は神矢理事が担当され、全日程を終えました。



写真はあいさつをする新谷理事長、司会の江連部員、着席の時末専門官（右から）

来年度の事業開催地については、目下要約筆記部で検討中です。来年度は更に多くの要約筆記事業に関わる難聴者講師や講師を目指す方々に参加いただけるよう期待しています。研修会の詳細報告は「難聴者の明日」175号に掲載します。（新谷・佐野・宇田川・神矢）

一般社団法人全国要約筆記者認定協会（仮称）準備会議

標記会議を1月21日名古屋市にある（特非）全要研事務所で行いました。転居後の全要研事務所は広く、セキュリティ対策もあり中古のスチール家具は新品同様、しかも転倒防止の対策も万全でした。その事務所の一角を新しい法人事務所として確保してありました。

全難聴からは新谷理事長と佐野事務局長が参加しました。新法人では社員と理事は3名以上として、全難聴と全要研から2名ずつ4名が就任することで申請を進め、スタートは4月1日を予定しています。

📍 テクノエイド協会「シーズ・ニーズマッチング交流会 2016」大阪



1月19日（木）にシーズ・ニーズマッチング交流会が大阪市内で開催（2月3日東京開催）。

全難聴から小川理事、地元大阪から中川が出展者としてブースに立ち参加者の対応にあたりました。今年で3年目の催しで今年の参加者は企業45団体、当事者団体13が展示出品に参加。これに加え一般参加者がいました。支援機器を作る人（シーズ）、使う人（ニーズ）の相互交流を図ろうという企画です。昼からは「障害者自立支援の開発を考えるシンポジウム」が開かれ、情報文化部長の小川理事が「聞こえなさ・聞こえにくさに向き合って」というテーマで30分の講演を担当しました。

（小川・中川）

写真上：ブースでのお二人



写真下：小川理事の講演の様子

📍 （一財）全日本ろうあ連盟発表の「筆談マーク」に対する協議

全難聴から正副理事長、耳マーク正副部長の4名、ろうあ連盟からは情報コミュニケーション担当正副委員長2名、事務局主任&担当2名の8名により12月1日ろうあ連盟発表の「筆談マーク」に関する協議が行われました。この協議では「サイン（標識）」としての意味を重視するろうあ連盟と「象徴」を重視する全難聴とで両団体の認識に大きな隔たりがありました。耳マークは40年を越える年月を普及活動を展開してきたこと。マークは運動の象徴であることから、筆談&手話等のコミュニケーション手段は別途説明が必要なことなどを全難聴より説明しました。この協議の記録を両団体で確認し、今後善後策を練り、改めて話し合いを持つこととしました。

今回の協議は下記のろうあ連盟宛発出の協議申入れ文書に基づき、日程調整が行われ開催されたものです。

2016 年 12 月 28 日

一般財団法人
全日本ろうあ連盟
理事長 石野富志三郎殿

「手話マーク」・「筆談マーク」決定のお知らせについて

一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連盟
理事長 新谷



平素は当会の活動にご支援・ご協力を頂きましてお礼申し上げます。

さて、12月1日付貴信（通本第 160552 号）にて「手話マーク」・「筆談マーク」決定のお知らせを頂きました。

ご承知のように、昭和 50 年に「耳マーク」が制定されてから、当会はその普及活動を積極的に行っております。「耳マーク」は聞こえない・聞こえにくいために様々な生活の場で苦痛を味わった難聴者が考案したアイデアであり、聞こえの向上・保障を求めていく積極的な生き方を象徴しております。そして、「筆談による支援」はこのような「聞こえの向上・保障」のための重要な耳マークメッセージとして非常に多くの場で活用されています。

貴連盟が「手話」について多大な取り組みをされていることに当会は共感と敬意を払うものであります。と同時に中途失聴・難聴者が筆談に込める思いや、それを表す「耳マーク」への取組も社会的に非常に評価に値する活動であると確信しております。このような活動のなか、貴連盟が「耳マーク」と類似の趣旨の「筆談マーク」をつくり独自の普及活動を行うことは、中途失聴・難聴者に対する社会の理解・支援に混乱をもたらすものであり、非常に遺憾なものであると考えます。そして、当会は「耳マーク」の目的と今までの普及の歴史を改めて振り返り、より一層の「耳マーク」の普及を通じて、中途失聴・難聴者の社会参加の促進に努めていきたいと考えます。

貴連盟も当会も聴覚障害を持つ当事者の集まりであり、それぞれの活動を尊重し、協力し合うことが非常に重要と考えます。つきましては、今回の貴連盟の「手話マーク」・「筆談マーク」決定につきまして、とくに今後の「筆談マーク」への取組につきまして、両団体で率直なお話をさせていただきたく、よろしくご検討のほどお願いいたします。

敬具

⇨ 厚生労働省・内閣府へ耳マーク運動への理解を求めました。

1月24日内閣府へ新谷理事長・佐野事務局長、1月30日厚生労働省へ新谷理事長・黒田理事が訪問し、耳マーク運動への理解を求める要請を行いました。
(新谷・佐野・黒田)

⇨ 全難聴だより103号「IFHOH 国際障害者デー」の記事

翻訳者名:山内菜央子様のお名前を間違えましたのでお詫びし訂正いたします。

↑ JDF イエローリボン型リフレクターチェーンの頒布



イエローリボンをリフレクター素材のキーチェーンにしました。暗いところで光が当たると反射しますので、カバン等につければ、交通安全グッズにもなります。

ご協力金：1個 400円(送料別)ご注文は全難聴事務所まで

協会ご注文は9個まで送料別、10個以上は1個単価300円送料込みで頒布する。

協会での頒布価格は400円/1個で頒布する。

↑ 理事の動き (1/1~1/31)

- 1月8~9日 全難聴要約筆記事業研修会(新谷・佐野・黒田・宇田川・神矢・齊藤)
- 1月19日 テクノエイド「シーズ・ニーズマッチング交流会」大阪(小川・中川)
- 1月20日 高齢者・障害者配慮設計指針-消費者生活用製品の音声案内の検討委員会(中川)
- 1月21日 全難聴・全要研新法人設立準備会議(新谷・佐野)
- 1月22日 連盟筆談マークに関する協議(新谷・佐野・黒田)
- 1月23日 JDF幹事会(新谷)
- 1月24日 厚生労働省、内閣府訪問 (新谷・佐野)
TA-net 打ち合わせ 事務所へ来訪 (新谷)
- 1月30日 厚生労働省訪問(新谷・黒田)

↑ 事務局報告

- 1月8~9日 全難聴要約筆記事業研修会
- 1月11日 フィジオコントロール
ジャパン株式会社来所
- 1月31日 全難聴便り No.104 発行
- 《2月予定》
- 2月3日 テクノエイド「シーズ・ニーズ
マッチング交流会」東京
- 2月4日 4団体連絡会(記録担当)
- 2月8日 日本コクレア株式会社 会談
- 2月11日 理事会
- 2月17日 聴覚障害者制度改革推進中央本部
会議
- 2月18日 要約筆記WG会議
- 2月19日 全国統一要約筆記者認定試験
- 2月28日 全難聴便り No.105号発行

第23回全国中途失聴者・難聴者
福祉大会 in 東京
2017年11月4日(土)~6日(月)
国立刈苅ヶ丘記念青少年総合センター
懇親会: 京王プラザホテル
テーマ: 東京で見つける
「新たな自分 つながる心
ひろがる未来」

主管:NPO 法人
東京都中途失聴・難聴者協会
5つの分科会、懇親会、
前泊でのナイトツアー、
3日目観光スケジュールです。
参加の予定を組んでください。